

市民活動ニュース

第78号

2007年10月

オープン後 半年 市民活動の場として定着 亀山市民協働センター

半年先までの予約が一目に

市民協働センターの予約は半年先まで可能。予約状況もホームページで見ることができます。

音響効果が良くなりました

音の反響による話の聞き取りにくい状況が大幅に改善されました。

遠方からの来訪者も

市民協働センターの前は何百年も人々が往来した東海道、街道歩きブームで遠来のお客さんも寄って休憩します。亀山、関、坂下宿のパンフレットも置いてあって便利に活用されています。

広がるパソコン活用

常設された3台のパソコンは無料でネット接続ができるため、市内に住むフィリピンや中国の皆さんが本国の仲間とのネットを通じてのおしゃべりや写真交換を楽しんでいます。またパソコンの習熟や、いろんな情報を得る手段にどんどん活用されています。

会議だけでなく広がる利用

1階の多目的ホールでは当初は予想していなかったダンスの練習にも頻繁に使われています。外からよく見えるのでグループの宣伝にもなっています。

近隣への賑わいに波及効果も

市民協働センターは月平均1,600人が利用されています。正面には、市民のショップ「ねこの館」があり、内科のクリニックもできました。今年から、空き店舗を活用してアートで街を活性化しようとする活動も始まりました。



トイレ・AEDも
あります



活動案内や宿場ガイド集



パソコンコーナーは今日も満席



市民交流の日 レポート 9月21日(金) 19:30~

市民協働センター

テーマ「災害に備えて(安心・安全なまち)」

講師:市危機管理室 小林氏(パワーポイントにより説明)



質問、意見等(回答:危機管理室)

Q地震の際の石垣はどうか?

A植栽等に変えることにより、倒れたりする被害は軽減できる。

Q今年4月の地震当日は当センターにひとりだった。耐震工事がされているが不安はあった。一斉放送の練習を誰もいないときにした。地震の際は外と中にいるのは、どちらが安全か。

A耐震工事をしていけば、中の方が安全。

Q阪神淡路大震災では、当時大阪に通勤しており、水を沢山持って通った。ブロック塀の被害は怖いと思った。

まず、ブロック塀から直した。本箱はL金具で固定していた為助かったが。

A建芳と市で行っている65歳以上の家庭への家具転倒防止事業がある。現在までに600件ほど取り付けた。突っ張り棒よりL金具の方が有効かもしれない。

Q外出しており今回の地震は知らない。今後のため、対処方法を知りたい。地域でトップに立つ人は、例えば元学校の先生とか誰か先導をしてほしい。マニュアルも必要。きらめきでたまかなマニュアルを考えてもいいと思う。

A自治会長からも何をすればよいのか、市として指針を示してほしいと宿題をもらっている。マニュアルを持っているという自治会長もいる。雛形を市から示すが、それぞれ地域性がある。自治会だけで作成してもダメ。日中は地域内に人がいない。また作成したからよし、ではダメ。訓練や改定が必要。国や県はマニュアルを示しているため市でもマニュアルは考えている。

Q小学生の頃に昭和19年12月7日の東南海地震を体験した。余震も何回もあり歩けないほどであった。地割れもして、はしごを地面に置いて、そこにムシロを敷き火鉢を置き外で寝た経験がある。戦時中で用水が用意してあったが、それも揺れで溢れパシャン!!と音がし、石で作られているものもひび割れをしていた。このため、地震がきたら外に出るといのが体に染み付いている。外に出るときに逃げる場所はどこがよいか。瓦も飛んでくる。防空頭巾も最近売っている。地震だとの程度電柱が倒れるのか。また最小限持ち出すものは何か。

A避難場所は定めてある。危険回避する場所は家の周辺で各自探してほしい。電線が切れて感電することも考えられるし、建物が倒壊しないような広場を探しておくともよい。用意するものは、水3L、3日分の食糧と言われるが、持ち出すには無理がある。まずはチョコレート等のコンパクトなもの。水は持てる範囲。食糧は田舎なので米が各々備蓄されていると思う。持ち出すものは、懐中電灯、ラジオ、眼鏡、入れ歯、保険証、お金、印鑑など、代用できないもの。避難場所では、毛布や座布団も必要。とっさに出るときはよいが、避難している間に泥棒が入ることもある。備蓄場所は倉庫や車のトランク(キーがいるが)という手もある。震災に遭ったまちには、警察官がたくさん配備されていた。(災害泥棒の取り締まり)また、家に入るには(倒壊の恐れを判定する)応急危険判定士が紙を貼る。(青・黄・赤)赤紙を貼られたら、家に入れない。

Q耐震工事にかかる一般的な費用はどれくらいか。また手順はどうか。

A昭和56年に建築基準法が改正。それ以前の建築物は主に基礎部分を直すことになる。ベタ基礎が強い。土壁はやめて、耐震壁にするとか、間口を壁にする、屋根瓦を軽くする等の方法。平均200万円かかる。リフォーム含むと200~300万円。耐震補強補助はある。耐震診断をし、費用の2/3で上限60万円。

Q情報管理について教えてほしい。

A安心メールは行政が発信する(正確な情報発信のためタイムラグがある。安心メールに入っていない人をいかに入ってもらおうかが課題。現状としては、広報車で回ることとなる。デマは信じないようにしてほしい。

市民参画協働室から:前回の市民交流の日では、「市民協働センターに愛称を」という意見が出た。今後、皆さんの意見を無にすることなく前向きに検討していきたい。出された意見の中には、すぐに解決できないこともあるが、何らかの形で解決していこうとすることは大切。今後も、そういう姿勢で臨んでいく。

次回のテーマは、「長寿社会を生きる」です。ぜひ、ご参加ください。



亀山市民の水源を守る署名 3万人を超える

伊賀の業者から経済産業省に提出された加太川源流域での鉱業法による試掘権設定の不許可を求める署名は、市内各団体の努力で3万人を超えました。その中には市外からも800人以上の賛同の署名が寄せられました。皆さまの熱意の署名は今月中にも国(経済産業省)に届けられることになっています。残念なのは、より大きな部分を占める伊賀市からの市民の動きが見られないことです。これは申請が地元の業者でもあり、伊賀市は伝統産業として古くから伊賀焼等、けい石の採取で広く鉱業権が設定された区域が多いのが背景にあるようです。

署名の明細(10月3日集計)

自治会連合会	28,210
商工会議所	5,589
亀山の自然を愛する会	826
合計	34,625



子々孫々に禍根を残さないよう今後の動きに注目していきましょう。

「第九」ソリスト&ピアノとヴァイオリン 第2回 ひとのちコンサート

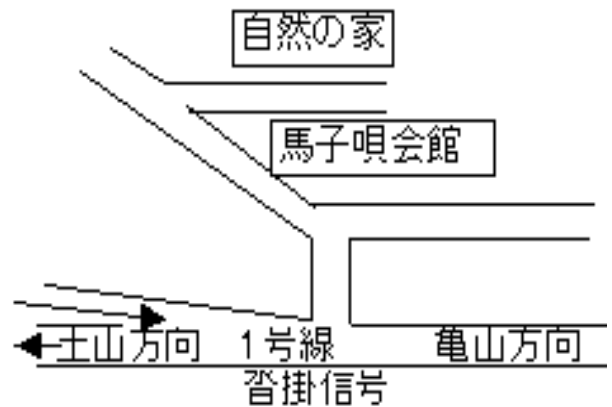
2007.11.4(日) in 鈴鹿馬子唄会館

開場13:00 開演13:30

入場券(自由席) 一般700円 小中高生300円

出演者

独唱	ソプラノ	佐波真奈己	主催:「第九」を愛する会
	アルト	小林まゆみ	後援:亀山市
共演	ピアノ	北後 知尋	亀山市教育委員会
	ヴァイオリン	残間 祐子	亀山市文化会館



自殺防止講演会

NPO法人三重いのちの電話協会では、2007年度厚生労働省自殺防止対策補助事業の一環として、11月25日(日)に、鈴鹿市神戸の男女共同参画センタージェフリーすずかで、自殺防止講演会を行います。「なぜ、自殺予防が求められるのか ~ 遺された家族の思いを伝えたい~」という演題で、精神科医で、国立精神・神経センター精神保健研究所名誉所長の吉川(きっかわ)武彦先生にお話していただきます。入場は無料です。是非ご参加ください。

ひとりで悩まないで、どうぞお電話ください。

三重いのちの電話

相談電話は 059-221-2525

相談時間は 毎日 18時~23時 です。

ホームページ <http://www12.plala.or.jp/mie-inochi/>





あのひと、このひと

このコーナーは、市民活動団体の代表者の方に市民活動を始めたきっかけや、これから活動を始める方へのアドバイスなどを率直なことばで語っていただきます。

今回は、託児ボランティアすずしろ会代表 倉田とみ子さんです。

今、振り返りますと、長男が幼稚園のとき「母親教室を」受講したのがきっかけかもしれません。当時から子育てについて学習したいというお母さんは多く、託児は望まれていたようですが、今のように子育て支援とかボランティアという言葉はほとんど聞かれない時代でした。次男が幼稚園に入り、ボランティア養成講座の開講を知り受講しました。そして、託児ボランティアすずしろ会が発足し、私も1会員として活動に参加してきました。

会は、今年25周年を迎えましたが、当初の会員6人を含め現在30人が活動しています。最近は、活動の機会もかなり増えてきました。この活動を今後も続けていくために、もう少し若い方の参加を望んでいます。

よく「大変でしょう。」と言われるますが、私の場合、誰かのためではなく、自分のためにこれまで続けてきたと思っています。多くの人々との出会い・子どもたちとの触れ合いを通じて、気づかされ、教えられ、元気をいただき、自分自身が前進することができたのです。また、以前お預かりしたことのあるお子さんが成長されてある日再会、そんなときは何より嬉しいです。

先日、託児の現場に見学にくられた方がいらっしゃいます。何か活動をお考えの方は、まず行動を起こされてはいかがでしょうか。



市民活動交流会 楽しく交流しよう!

日時: 11月7日(水) 8:30～15:00

集合: 市民協働センター駐車場 午前8時30分 (市マイクロバス乗車)

内容: 伊賀市「町屋みらいセンター」視察・まちづくり市民会議と交流
名阪森林パーク「鹿伏兎山脈グループ」と交流

注意: 弁当持参、ごみ持ち帰り

申込締切日: 10月31日(水) 定員: 30人(先着順)

問合・申込先: 市民部市民参画協働室 84-5008 Fax 82-1434

Email: shimin@city.kameyama.mie.jp

暮らしの困りごと相談「1日合同行政相談所」開設します。

専門の相談員がご相談に応じます。どうぞ、お気軽にご来場ください。(無料・秘密厳守)

日時: 11月10日(土) 10:00～15:00

場所: 市民協働センター

問合先: 三重行政評価事務所 059-227-1100 (行政相談課)
市民部地域づくり・相談室 84-5007



私たちのまちの企業

企業との協働を一層推進するために、「企業の社会貢献活動」や「企業が行政と協働してまちづくりに参画している様子」などをご紹介します。

今回は、古河電気工業(株)三重事業所の取組について、三重事業所長様に語っていただきました。

三重事業所は、昭和46年(1971年)に能褒野の地に約50万㎡の工場用地を得て、操業を開始しました。現在、銅の電線や板、光ファイバケーブル、自動車用の電装部品などを製造しています。従業員の多くは、亀山市およびその周辺から通勤しています。

工三重事業所は、あらゆる活動の中でも、環境に対する取り組みにはひときわ力を入れています。国や県、市の環境基準に対する法律や条例には厳しく遵守する方針で取り組み、綺麗な空気や水の維持に努めています。さらに、行政からの呼び掛けに応え、鈴鹿峠周辺の清掃ボランティアや、鈴鹿川河川敷の清掃ボランティアには、毎年多数の社員が参加しています。社員だけでなく、その家族も参加し、恒例の行事となりました。事業所周辺の草刈りや清掃活動も、事業所の行事として毎年行なっています。

このほか、地元自治会との交流にも努め、市民としての企業として、各種の会合や行事にも参加しています。また、亀山市の駅伝大会には一企業として参加するばかりでなく、自治会チームに参加する社員もいます。

また、三重事業所では、毎年夏休みの最後の日曜日(今年は8月19日でした)に夏祭りとして「納涼祭」を行なっています。夏祭りは、社員や協力会社の方々による模擬店や、地域の方々によるアトラクション、花火大会などが盛大に行なわれます。社員や家族ばかりでなく、広く地元住民の方々、市民の方々にも、自由に入場していただいております。模擬店は原価割れの格安です。花火も敷地内で間近で見られます。これも一つの地域貢献として、来年以降もより多くの方々にご来場いただければと願っています。ぜひ、お越しください。



清掃活動



納涼祭



10月の市民交流の日「きらめき亀山21」

日 時: 10月21日(日) 19:30~21:30

場 所: 市民協働センター 申込み不要

テーマ: 「長寿社会に生きる」

アドバイザー: デイサービス・グループホーム「箕田の北さんち」

施設長 伊藤正弘氏



6回シリーズの市民活動スキルアップ講座も、まもなく終了します。ぜひ、ご参加ください。

第5回講座

日 時: 10月30日(火) 19:30~21:30

テーマ: よい司会者になろう よい発言者になろう

内 容: 「よい発言と司会のポイント、異なる意見の調整」・意見交換

第6回講座

日 時: 11月13日(火) 19:30~21:30

テーマ: 市民から信頼される力強い市民活動を行うために

内 容: 討論・発表・講評

注 意(第5回・第6回共): 講師: NPO法人 市民社会研究所, 場所: 市民協働センター

参加費無料。託児: 要申込み(託児料 1人200円)ただし、講座の2週間前に締め切ります。

また、託児可能年齢は、6か月以上小学生までです。

第2回まちづくり講演会

日 時: 11月11日(日) 13:00~15:30

場 所: 市民協働センター

内 容: 講演「よみがえれ 八幡堀!」13:00~14:30

まちづくりにかける思いから、荒廃した八幡堀を復活させた体験談をお聴きします。

意見交換 14:30~15:00

講 師: 前近江八幡市長 川端五平衛 氏

参加費: 無料

*スキルアップ講座、まちづくり講演会の問合・申込先

市民部市民参画協働室(84-5008) 市民協働センター(84-5800)

市民活動ニュースに掲載する情報・お便りを募集しています。

詳しくは、市民参画協働室(Tel 84-5008、Fax 82-1434、Email: shimin@City.Kameyama.mie.jp)又は、市民協働センター(旧百五銀行亀山支店跡 Tel.84-5800 Fax.84-5801、Email: mail@shimin-kyodo.sakura.ne.jp)へご連絡ください。

編集作成: 「きらめき亀山21」広報部(問い合わせ先: 亀山市民部市民参画協働室 0595-84-5008)

〒519-0195 三重県亀山市本丸町577番地 FAX0595-82-1434 E-mail shimin@city.kameyama.mie.jp

この月刊新聞はこちらにもあります。【毎月21日市民交流の日・本庁ロビー・市民協働センター・関支所・図書館・歴史博物館・医療センター・総合保健福祉センター「あいあい」・関町北部ふれあいセンター・林業総合センター・鈴鹿馬子唄会館・老人福祉センター・健康づくり関センター・関B&G海洋センター・中央公民館・オアシス館・各地区コミュニティセンター・亀山郵便局・亀山駅前郵便局・市民のショップねこの館・鈴鹿県民センター・みえ市民活動ボランティアセンター(津市)】ホームページ <http://shimin-kyodo.sakura.ne.jp/kirakame21/> 市民ネット <http://www.shimin-kyodo.sakura.ne.jp/shiminet/>